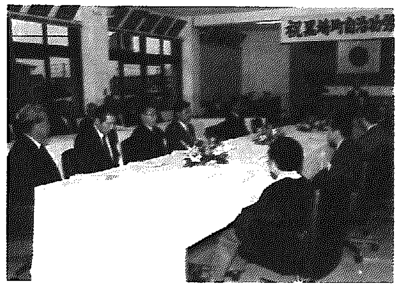
平成2年度

黒埼町自治功労者

自治行政・文化・産業等の功労者13人が表彰される

平成二年度の町の自治功労者が決まりましたので、ご紹介します。町の自治・文化・産業・保健衛生・社会福祉などに尽力された十三人のかたが表彰されました。



この表彰は、町政や文化・産業などに功績のあった皆さんの功労を称えるため、町表彰条例に基づき表彰委員会で審議され、町が表彰するものです。

表彰式は十一月二十日(火)、役場議場で行われ、町長から自治功労者の皆さんに表彰状が手渡されました。

■多年本町の自治振興につくした皆さん

◎選挙管理委員を昭和46年12月から平成2年8月まで、選挙管理委員長を昭和59年12月から平成2年8月まで務めた。

吉田九郎平氏
(大野3212番地)

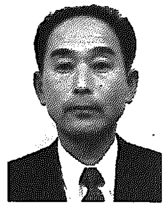
■文化の向上に貢献された皆さん

◎彫金一筋に創作活動、文化の発展に活躍され、日展審査委員、県展参与等の要職を歴任し、工芸界の育成と発展に貢献された。また、町における美術協議会の名誉会長として会の育成、指導にあたられるとともに各種美術展においても積極的に出品し、文化の向上に寄与している。

亀倉宇吉氏
(金巻2018番地1)

■産業の開発または振興につくした皆さん

◎農業委員会委員を昭和53年7月から平成2年7月まで、農業委員会会長を昭和62年7月から平成2年7月まで務めた。



五十嵐郁也氏
(北場15番地1)

◎西蒲原土地改良区総代を昭和46年6月から現在まで、西蒲原土地改良区黒埼副支所長を54年7月から62年6月まで務める。

長谷川権六氏
(鳥原新田542番地)

■社会福祉の増進につくした皆さん

◎保護司を昭和37年5月から平成2年4月まで、民生委員・児童委員を48年4月から平成2年4月まで、人権擁護委員を55年8月から平成2年4月まで、務めた。

(故)赤沼教正氏
(鳥原1613番地甲)

◎民生委員・児童委員を昭和43年12月から現在まで務めている。

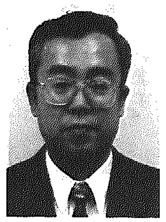
遠藤ヒサ氏
(大野2920番地)

■保健衛生、体育の向上につくした皆さん

◎献血を50回以上された。(献血回数56回)

佐藤功二氏
(大野963番地4)

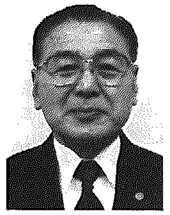
◎献血を50回以上された。(献血回数50回)



渋谷弥一氏
(山田2042番地)

■町職員として多年勤続した皆さん

◎昭和29年から平成2年まで町職員を勤められた(勤続年数36年)



神原平馬氏
(金巻802番地4)

◎昭和34年から平成2年まで町職員を勤められた(勤続年数31年)

広瀬建三氏
(大野951番地3)

■公益のため多額の金品を寄付された皆さん

◎社会福祉、行政に現金100万円を寄付。

広瀬徳男氏
(板井453番地1)

■多年自治会長として、またその他自治行政の振興につくした皆さん

◎鳥原大明自治会長を昭和53年から56年まで、59年から現在。

伊藤秀正氏
(鳥原2657番地3)

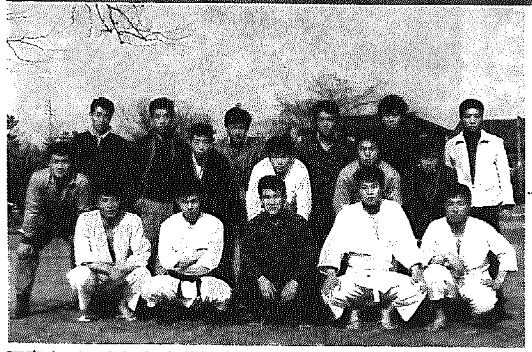
■再度の表彰

◎民生委員・児童委員を昭和33年12月から平成元年11月まで31年間にわたり務められた。

片岡マツノ氏
(鳥原576番地)

板井の柔道(四)

昭和三十、四十年代も板井柔道部の活躍は続くが、四十九年ころ青年団とともに消滅。



写真上／昭和34年中蒲地方柔道無段者大会で準優勝した板井青年柔道部無段者。下段右から田辺勝男、永井武弘、佐々木辰也、池乗治平、石田、田辺勝男、田辺六衛、種村清松、中段右から田辺健、小林幸作、丸山秀一、山本三代司、丸山登志一、高橋信一、池乗幸平、上段右から小林一郎、萩野勇朗、佐野信、大久保甚一、永井光男、池乗伸

写真下／昭和41年2月28日、西中蒲原地方柔道無段者大会で優勝した板井青年柔道部員と役員。下段右から永井小三郎、萩野誠一、永井武弘、岡田利栄、佐々木秀男、上段右から萩野正男、佐野兵辰、佐野兵一郎、藤井源一、山崎正男、笠原利幸、篠原金一、藤由由衛、田辺一衛、池乗清市郎、坂井健一

昭和二十年代から三十年代にかけて、板井柔道の後継者が順調に育っていた。

昭和三十年代後半の活躍ぶり

昭和三十五年二月、板井小学校で「西・中蒲原地方柔道大会」が開かれた。そこで無段者・団体戦に出場した板井チーム(永井武弘、池乗治平、田辺勝男、佐野新一、佐々木辰也)は、圧倒的な強さで勝ち抜き、優勝を果たした。たまたま、その大会には県柔道連盟の会長が臨席していて、余りにも見事な勝ちっぷりに、永井以下全員が初段に昇段させられた。昇段試合も経なかったわけで、これはまったく異例のことだったという。

永井たちの後を追って入部した岡田利栄、山田嘉一郎、永井小三郎、佐野兵辰らも稽古に励み、岡田は間もなく初段となった。

そのころの板井柔道部の稽古を見て、柔道に関心を持った中学生の萩野誠一は、巻の興農館高校に入り、そこの柔道部で手ほどきを受けた。そして、三十八年に友人佐々木秀夫といっしょに板井柔道部に入った。さらに、萩野の後輩の坂井宅栄、佐野兵一郎、岡田徳男、広瀬喜一郎、山本哲雄らも入部し、永井、岡田ら先輩の指導を受けてめきめきと力をつけた。

四十年代の板井柔道部

四十一年二月、味方村吉江の高念寺道場で第三十回白根地方柔道無段者大会が開かれた。板井チーム(萩野誠一、佐々木秀雄、丸山一作、佐々木勝助、山田嘉一郎)も出場し、みごと優勝、先輩の付託にこたえた。続いて同年に行われた黒埼村青年団陸上競技大会の「部落対抗柔道無段者団体戦」でも板井チームは優勝した。

また、その年の八月二十日、大野小学校で「日米親善柔道大会」が行われた。黒埼村から、無段者として一人萩野誠一が出場した。この大会の模様は黒埼村公民館報に次のように載っている。「昭和四十一年八月二十日大野小学校で日米親善柔道大会が行われた。当日正午から県警ブラスバンド隊を先頭に、日米両国選手三十余名が町内をパレードして、大会気分を盛り上げ、この大会に出場した米選手の半数は講道館へ合宿に来たもので、外はカルフォルニア大学より選抜されたつわものたちだった」

この大会の両軍の成績等は記録がないため分からないが、萩野は敗れた。彼もそんなに小さい方ではないのに、取組むと相手の胸毛が顔のあたりにくるという巨漢で、いくら技をかけようとしても通じなかったという。

四十二年の黒埼村青年団陸上競技大会柔道「無段者の部」に板井柔道部無段者チームも出場、団体優勝を果たし、萩野誠一は個人優勝した。

四十三年暮れころ、萩野は初段を取り「無段者チーム」から離れたが、その後も「無段者チーム」は佐野兵一郎、山本哲雄、岡田徳男、坂井宅栄、広瀬喜一郎らの活躍によって四十八年ころまで、白根地方大会ではいつも上位入賞、優勝をくり返した。

しかし、萩野の後に有段者は育たず、四十九年ころ、村青年団の消滅とともに「板井柔道部」はなくなった。

以前、この欄で紹介した「木場柔道部」に比べ、「板井柔道部」は部員数も有段者数もはるかに少ないが、柔道に取組む若者たちの真剣な気持ちは、木場も板井も変わりはない。

執筆・宮田栄門　取材協力・永井武弘、萩野誠一、岡田利栄

民館報　くろさき

日米親善 柔道大会終る

十七試合＝八対六＝三引分け

去る八月二十日大野小学校体育館において開催された。本村主催の日米親善柔道大会は、正午より県警ブラスバンド隊を先頭に、日米両選手三十余人が、町内をパレード、大会気分をいっそうに盛り上げ、また会場には日米両国旗が、かかげられ、午後一時より西蒲対白根の前座試合に引き続き、館内も熱気と暑さが、グーンと加わり、千人を越える観客も、汗をふきふき、全十七試合を観戦、結局八対六・三引分けの少差で日本チームが勝ったものの、今度の米選手の半数程は、講道館へ合宿に来ているもので、そのほかは、カルフォニア大学より選抜されてきたつわものぞろい。午後五時大盛会のうちに全試合を終了した。

日米親善柔道大会を知らせる黒埼村公民館報